

カレンダー工場『えがお』

特別支援学級 自立活動（R5年度実践）

1 単元の目標

- ・カレンダー工場の仕事自分で選び、最後まで活動に取り組むことができる。
(3人間関係の形成(3)自己の理解と行動の調整に関すること)
- ・友達と協力して作業することができる。
(3人間関係の形成(1)他者のとのかかわりの基礎に関すること)
- ・カレンダー作りを通して、身の回りの生活動作を習得する。
(5身体の動き(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること)
- ・作業ができたことや、カレンダーを届けて喜んでもらうことを通して、自己有用感を高める。
(3人間関係の形成(3)自己の理解と行動の調整に関すること)

2 子どもの実態

本校の特別支援学級は6組と7組の2学級で、11人で学習している。児童一人一人の相手意識が少しずつ育ってきて、放課には友達どうしで積極的に、言葉でコミュニケーションを取る姿が見られる。発語がない児童、はっきりしない児童も、身振り手振りを交えながら相手と関わろうとするようになってきた。

学習では、慣れた活動には落ち着いて取り組むことができる。しかし、取り組みたい気持ちがあっても、失敗を恐れて活動に消極的になったり、うまくいかないときに助けを求めることができずに活動を止めてしまったりする場面もまだ多く見られる。自発的に、自信をもって活動に取り組むことができる児童を目指したい。周りからがんばりが認められたり、友達のがんばりを認めたりする経験を重ねることで自己肯定感を高め、意欲的に学びに向かうことのできる児童を育成したい。

3 単元観

本校特別支援学級の児童は、毎年2学期にカレンダー作りに取り組んでいる。カレンダー作りでは、児童一人一人が1月～12月の中で自分の担当する月を決め、絵と日付をかく。原稿を印刷して各月のページと表紙を束にし、ステープラーと製本テープで留め、ミシンで切り取り線を付ける。こうして完成したカレンダーは、自分たちの家庭で使ったり、交流学級や校長室などに届けて学校全体で使ってもらったりするため、子どもたちは毎年この学習をとっても楽しみにしている。

作業はそれぞれの工程ごとに分かれて行い、全員の仕事がうまく成立するとカレンダーが完成する。そのため昨年度も在籍していた児童は、カレンダー作りでは協力が大切であること、たくさんの作業を効率よくこなすことが必要であることを実感している。発達段階が大きく違う子どもたちではあるが、それぞれの段階に合わせた作業を用意したり、支援教具を使ったりすることで、自信をもって自分の仕事に取り組み、自己肯定感を感じられるようにしたい。そして、友達と協力して作り上げる達成感を味わわせたい。また、カレンダーを渡した相手から感想をもらうことで、相手に喜んでもらったという思いをもたせ、自己有用感を高めることにもつなげたい。

4 具体的な支援

(1) 視覚的な支援

11名の子どもたちは発達の段階がさまざまである。視覚的に捉えやすい、理解しやすいように、単語やイラスト、写真等で示したり、プロジェクターを使ったりして、視覚的に支援する。

(2) ふり返りの支援

ふり返りを文で書くことが困難な子ども、自分の仕事の内容について理解が難しい子どもが多い。

前時の仕事の様子やよかった点について、教師が言葉で具体的に伝えたり、視覚的に示したりして、子どもたちに自己肯定感をもちせたり、次にどんな点に気をつけたいかを意識させたりする。

(3) 意欲的に取り組むための支援

自分が取り組む仕事を自分で選択し、意欲をもって取り組むことができるようにする。自分で選択することが難しい発達段階の子どもについては、教師が指定した仕事に取り組む。自分や友達がどんな仕事に取り組んできたかの積み重ねを教室掲示で示し、「がんばったな」という達成感をもちせたり、自信をもってその仕事に取り組むことができるようにしたりする。また、それぞれの仕事で子どもの発達に合わせた道具を使い、子どもたちが自分の力で仕事をするようにする。道具の場所を定め、自分たちで準備や片付けができるようにする。

(4) 教具による支援

- ・ステープラーを留める仕事を支援するために、用紙を縦と横に整頓しやすい教具を作成する。
- ・製本テープを切る仕事を支援するために、同じ長さで切ることができる教具を作成する。
- ・製本テープ貼りの仕事を支援するために、テープの中央で折って貼ることができる教具を作成する。
- ・ミシン掛けの仕事を支援するために、ミシン掛けの場所が安定するようにガイドを作成する。
- ・包装紙で包む仕事を支援するために、円筒にして包みやすい教具を作成する。

5 指導計画 (全15時間)

時間	学習内容と活動	ふり返りの視点
1 2 3 4 5 6	<p>『2024年の6・7くみカレンダーを作ろう』</p> <p>○昨年度のカレンダー作りを想起させる。</p> <p>○何月を担当したいか、意見を出し合って決める。</p> <p>・各月の行事や季節感に合わせたイラスト・キーワードを提示し、児童が想起しやすいようにする。</p> <p>『カレンダーの絵をかこう』(図画工作等)</p> <p>『カレンダーの日付を書こう』</p> <p>○児童一人一人の実態に合わせた方法で、カレンダーの原稿を仕上げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーを作って、家族や交流学級に届けたいという思いをもちさせる。
7 8 9 10 11 12	<p>『えがお工場でカレンダーを作ろう』</p> <p>○仕事の内容を確認し、自分が担当する仕事を決める。</p> <p>・①とりとり(製本)、②チェック、③ホチキス、④テープ切り、⑤テープ貼り、⑥ミシン掛け、⑦包装紙作り、⑧包装紙掛け</p> <p>・今日は何番までの仕事を行うかを確認し、自分がどの仕事を担当したいか意見を出す。</p> <p>○自分のめあてを聞き、仕事に取り組む。</p> <p>・それぞれの作業の内容や児童に合わせた治具を用いて作業する。</p> <p>・自分の仕事ができたら、次の人へ「お願いします」と伝えて渡したり、「はい」と返事をして受け取ったりすることを確認する。</p> <p>○自分のめあてが達成されたかを確認し、ふり返しを行う。</p> <p>・今日、自分たちが仕上げた成果を見たり、数を数えたりして、達成感を得られるようにする。</p> <p>・めあてが達成されたら、自分の名前欄にシールを貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の内容に合わせた「個のめあて」を1時間ごとに確認し、それが達成されたかどうか、自己評価と教師による評価を行う。 ・直したいこと、気を付けたいことについて発表したり、ふり返しに書いたりする。【まなふり】 ※児童一人一人の実態に合わせた方法(ふり返しシートに○を付ける、文章で書く等)でふり返しを行う。 ・数時間後に「個のめあて」達成のシールをふり返し、自分の仕事に対して達成感や自己有用感を得る。【ふりふり】
13 14 15	<p>『カレンダーを届けよう』</p> <p>○完成したカレンダーを、家族や交流学級に届ける。</p> <p>・挨拶の仕方や、渡し方を役割演技で練習する。</p> <p>・がんばったことや、「ぜひ使って下さい」等、届ける時に添える手紙を書く。保護者や交流学級の先生から感想をもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感想のメッセージをもらってどんな気持ちだったか、来年度のカレンダー作りに向けて頑張りたいこと等を考える。【ひろふり】

6 本時の指導（10／15）

（1）児童の実態と目標

児童	本時の学習に関する児童の実態	本時の目標
A	自分の好きな仕事であれば、席に座って落ち着いて作業をすることができる。	仕事時間いっぱいまで、スタンプを押す。
B	仕事に興味が向かず、立ち歩く。教師の声かけで戻り、気が向くと仕事に参加することができる。	教師とやりとりをしながら、自分の席で仕事をする。
C	自分の仕事に対する理解は低い。教師に声をかけられると意識を向けることができる。	一緒に仕事をする教師の声かけで、タイミングよくステープラーや型抜きを押す。
D	自分の好きな仕事であれば、意欲的に取り組むことができる。長時間の仕事では集中力が切れ、大きな声を出す。	次の人に「お願いします」を伝える。周りを見て、準備・片付けができる。
E	やりたい仕事を決め、意欲的に取り組むことができる。周りの子がやっていることが気になり、口や手が出る。	同じ仕事の仲間と、協力して取り組むことができる。
F	意欲的に仕事を選び、挑戦することができる。落ち着きがなく、仕事が雑になることがある。	次の人に「お願いします」を伝える。周りを見て、準備・片付けができる。最後まで集中して仕事をする。
G	意欲的に仕事を選び、挑戦することができる。周りの子に声をかけながら取り組もうとする。	友達と協力して仕事ができる。
H	好きな仕事があり、それに繰り返し取り組むことを好む。自分一人で仕事をしたいこだわりがある。早くこなしたい気持ちがあり、仕事が雑になることがある。	次の人に「お願いします」を伝える。周りを見て、準備・片付けができる。丁寧に作業する。
I	仕事のやり方を理解して取り組むことができる。周りの子がやっていることが気になり、次々に口や手が出る。	同じ仕事の仲間と、協力して取り組む。「お願いします」「はい」などの受け答えができる。
J	自分で選択をすることに困難がある。周りの子の意見に流されやすい。	自分で仕事を選ぶ。
K	やりたい仕事を決めるまでに時間がかかる。周りの子と協力して取り組むことができる。	「お願いします」「はい」「困っています」「教えてください」など、場に応じた会話ができる。

（2）授業構想

始めに、前時の仕事の様子やよかった点について、教師が言葉で具体的に伝えたり、写真や現物を見せて視覚的に伝えたりすることで、自分でふり返りをするのが難しい子どもに前時までの様子を想起させる。また、前時に問題になった点（仕事の失敗、めあてが守れなかったこと等）があれば、それも具体的に伝える。本時では直して取り組もうとする意欲につなげたい。

次に、本時の仕事の内容を、単語とイラストで分かりやすく示す。それぞれの意欲を大切にするため、子どもたちが自分で取り組む仕事を自分で選択し、挙手をして発表する。発達の段階によっては、教師が子どもに合った仕事を指定する。同時に、本時にがんばりたい目標も、子どもたちが自分で選択する。選んだ仕事と目標は、ワークシートに○を付ける形で記入する。記入ができたなら教師が提示する時計の模型を見て、仕事の終わり時間を確認する。

続けて、自分の仕事の場所に机を移動させる。仕事をする場所は、プロジェクターに映した教室配置

図に、顔写真とイラストを貼って分かりやすく示す。移動を終えたら、児童が自分たちで必要な道具を準備して作業に取りかかる。自分たちに合った道具を使ったり、友達と協力したりすることで、意欲的に取り組む姿を期待したい。

仕事の終わり時間がきたら、それぞれ片付けを行う。道具の場所をあらかじめ決めておいたり、写真で示したりすることで、子どもたちが自分の力で最後まで片付けられるようにする。最後に、自分が今日の仕事をがんばれたかどうか、ワークシートに○を付けたり文で書いたりする。一人一人に声をかけ、今日の仕事の様子について具体的に言葉で伝えたり、前時との違いや成長を伝えたりし、子どもたちが自分のがんばりを実感できるようにしたい。

(3) 準備

大型スクリーン、教師用タブレット、ワークシート、これまでの仕事の経験を示した掲示、仕事内容を示した単語カード、めあてカード、ホワイトボード、児童の顔写真カード、時計の模型、それぞれの仕事用補助具、花丸マークカード

(4) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
3	<p>1 前時のふり返しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おねがいします」が言えたから、今日も言おう。 ・前はテープ切りをがんばったな。たくさんできて、うれしかったな。 ・テープを貼り間違えちゃったけど、先生に「お願いします」と伝えたら直してもらえたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りが難しい子への支援として、前時の仕事の様子や、よかった点について、教師が言葉で具体的に伝えたり、写真や現物を見せて視覚的に伝えたりする。 ・失敗した例についても写真や実物で伝え、困ったときには教師に伝えることを押さえる。
15	<p>2 本時のめあてと、仕事の内容を確認する。</p> <p>カレンダーを協力して作ろう 第〇回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とりとり」に自信をもってチャレンジできるから、「とりとり」をがんばろう。 ・「テープ貼り」の仕事をする人が少ないから、私がやってみようかな。 ・わたしは、「ホッチキス」をやります。 ・「しずかに」のめあてでやってみよう。 ・今日は、2時30分まで仕事だね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の仕事の内容は単語とイラストで、担当者は顔写真で分かりやすく板書する。 ・ワークシートを単語とイラストで示し、選択したものに○を付ける形式にすることで、字を書くことが難しい子どもにも取り組みやすいようにする。 ・時計の模型を用いて、作業時間を示す。
35	<p>3 それぞれの仕事をする場所に移動し、作業をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とりとり」の場所はここだね。 ・道具を道具置き場から持ってこよう。 ・次の人に渡す時に、「お願いします」が言えるよ。 ・〇〇ちゃんがはさみで切ってくれるから、反対側を押さえてあげよう。 ・時間になったよ。こんなにたくさんできた。 ・道具置き場に道具を返そう。机も元に戻すよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内の配置図を、写真とイラストで示す。 ・道具の置き場をあらかじめ定め、児童が自分で準備、片付けをできるようにする。 ・児童の発達に合わせた支援教具を用いて、自信をもって作業できるようにする。 ・一人で作業に取り組むのが難しい児童には、教師が個別に支援について、ステープラーを押す時に合図を出したり、タイミングよく声をかけたりする。 ・作業の終わり時間をアラーム音で示す。

45	<p>4 ワークシートにふり返りを書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に決めた「お願いします」を言うめあてが守れたな。今日はにこにこ顔に○を付けよう。 ・たくさんできて、うれしかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発達に合わせた方法で、ワークシートにふり返りを記入する。
----	--	--

(5) 評価

A	仕事時間いっぱいまで、スタンプを押すことができたか。
B	教師とやりとりをしながら、自分の席で仕事をすることができたか。
C	一緒に仕事をする教師の声かけで、タイミングよくステープラーや型抜きを押すことができたか。
D	次の人に「お願いします」を伝えることができたか。周りを見て、準備・片付けができたか。
E	同じ仕事の仲間と、協力して取り組むことができたか。
F	次の人に「お願いします」を伝えることができたか。周りを見て、準備・片付けができたか。最後まで集中して仕事をすることができたか。
G	友達と協力して仕事をしたか。
H	次の人に「お願いします」を伝えることができたか。周りを見て、準備・片付けができたか。丁寧に作業することができたか。
I	同じ仕事の仲間と、協力して取り組むことができたか。「お願いします」「はい」などの受け答えができたか。
J	自分で仕事を選ぶことができたか。
K	「お願いします」「はい」「困っています」「教えてください」など、場に応じた会話ができただか。